体型分類に関する研究 — 成人男子について —

○ 畠山絹江、福井弥生（京都女子大・家政）、奥村董（滋賀女子短大）

Studies on physique classification
- adult men -

K.Hatakeyama, Y.Fukui (Kyoto Women's Univ., Econo.)
S.Okumura (Siga Women's Junior Coll.)

〔目的〕

近年、紳士服業界においても既製服の多様化・個性化・高級化の傾向が強まっており、これらに対処するためには、きめ細かな体型情報が必要である。本研究は、成人男子の体型分類を試み、分類された体型の特徴を捉え、既製服衣料サイズ設定に発展させることを目的とした。

〔研究方法〕

資料は昭和53年～56年に実施された通産省工業技術院の体格調査の中から、20～59才までの成人男子7203名の計測値を用いた。

年齢区分は、10年年齢間隔で20・30・40・50代の4区分とした。

体型分類については、前報¹⁾の研究より、ベルベック指数により、やせ型、中型、肥満型に分類し、この体型分類とJIS衣料サイズの体型区分との関係について検討した。

〔結果〕

(1) ベルベック指数による体型分類について

体格指数により、やせ型・中型・肥満型に分類すると、年代が進むにつれてやせ型が減少し、肥満型が増加するが、50代になると中型が減少し、やせ型が増加する（図1）。また3体型の身体寸法についてみると、長径項目では、体型間の寸法差は認められなかった（図2）。周径項目では、胸囲、胴囲、腰囲と体重において、やせ、中、肥満の順に寸法が大きくなり顕著な差が認められた。

ドロップについては体型間の差は僅少であった。（図3）

図1 ベルベック指数による体型分類の比率

図2 ベルベック指数による体型分類

図3 ベルベック指数による体型分類

主成分分析の結果、第1主成分は、3体型とも高径、長径項目があげられ、身体の高さを表す因子であり、第2主成分は、周径項目や体格を表す指数項目であり、身体の実や肥瘦を表す因子であった。第3主成分は胴のくびれを表す因子であった。

(2) 体型分類とJIS衣料サイズについて

やせ・中・肥満の体型を身長5cmピッチで区分し、現行の衣料サイズ区分と照合し、その適合性についてみると、身長が中でやせ型ではY・YA体型のサイズでは、胸囲、胴囲の平均値よりも大きい方に設定されることになり適合する人は僅少である。中型においても同様に、A・AB型の枠にあてはまる人は、平均値よりも大きい範囲の人である(図4)。肥満型では、B・BE・E体型の枠は、特に胴囲の平均値より大きい方にサイズ枠がかたっており、JISのサイズに適合する人は少なかった。

そこでドロップの分布についてみると、図5に示すとおり、ドロップの範囲が-2.5cm~22.5cmまでであり、3体型とも重なり合う部分が認められた。このことは、やせ型や肥満体型であってもずん胴や胴のくびれた体型が混在しており、JISの区分にあてはまらないことが推察される。したがって、ドロップによる衣料サイズの体型区分については再検討する必要があると思われる。

(3) 新しい衣料サイズの試案について

やせ・中・肥満の体型分類をベースにして、身長別の要素と組合せ、新しいサイズシステムの試案を作成した。その結果、やせ型で19中型で29、肥満型で27合計75のサイズとなり、現在の90サイズより少なく、しかも、3体型とも80%以上のカバー率となった(図6)。

引用文献

1) 畠山絹江、福井弥生、奥村董：肥満体型に関する研究 第1報 成人男子について、人間工学 VOL.23 特別号(1987)

図4 JISサイズ

図5 ドロップの分布

図6 新しいサイズ試案